

～ピロリ菌の除菌療法について～

ピロリ菌に感染すると胃に炎症を起こすことが確認されています。胃・十二指腸潰瘍の患者さんの約90%がピロリ菌に感染していて、胃・十二指腸潰瘍の原因になっていることがわかっています。さらに、胃癌との関連性も指摘されています。

ピロリ菌を除菌することによって潰瘍の再発率は著しく低下することが認められており、除菌することが大切です。



ピロリ菌とは

正式にはヘリコバクター・ピロリという細菌で、特殊な酵素でアンモニアを発生して胃酸から身を守っているため、胃の中で生きることができる菌です。どのように感染するのかわかりませんが、口から感染する(経口感染)のが大部分であると考えられています。ピロリ菌に感染するのは、通常、乳幼児期で、大人になってから感染することはほとんどありません。乳幼児は成人に比べて胃酸の分泌量が少なく、胃の粘膜の免疫力も弱いからです。

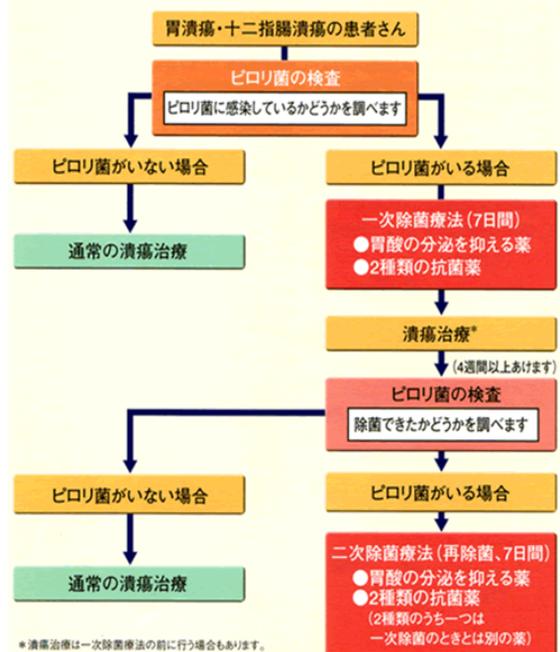
日本人の感染率は非常に高く、特に50歳以上では70～80%の人が感染しているといわれていますが、衛生環境の整ったことによって感染している割合は減少しており、若い世代では低くなっています。親がピロリ菌に感染している場合は、乳児に口移しで食べ物を与えないようにするなどの注意が必要です。

ピロリ菌の除菌療法

まずはじめに、胃潰瘍・十二指腸潰瘍の患者さんに対して検査を行い、ピロリ菌がいることを確かめてから治療を行います。

2種類の抗生物質と胃酸を抑える薬の3種類の薬を、朝と夕の1日2回7日間しっかりと続けて飲むことで約80～90%の患者さんはピロリ菌を除菌できます。1回目の除菌治療(一次除菌)で除菌ができなかった場合には薬を変えて再度除菌治療(二次除菌)を行うことが可能です。二次除菌では約90%の患者さんで除菌ができます。除菌が成功したかどうかは除菌療法終了後4週間以上あけて検査することでわかります。

●診断・治療の流れ



一次除菌

ランサップ 400



2種類の抗生物質と1種類の胃酸を抑える薬がセットになったものです。

- ・ アモリンカプセル 250 6カプセル
- ・ クラリス錠 200 2錠
- ・ タケブロンカプセル 30 2カプセル

→ 抗生物質

→ 胃酸を抑える薬



二次除菌

ランピオンパック



- ・ アモリンカプセル 250 6カプセル
- ・ フラジール錠 250 2錠
- ・ タケブロンカプセル 30 2カプセル

→ 抗生物質

→ 胃酸を抑える薬

服用時の注意

- ・ 確実にピロリ菌を除菌するために、薬は必ず指示されたとおりに服用します。
- ・ 自分の判断で服用を中止してはいけません。除菌に失敗して、治療薬に耐性を持ったピロリ菌があらわれることがあります。

必ず同時に3種類の薬(2種類の抗生物質と胃酸の分泌を抑える薬)を1日2回(朝と夕)、7日間続けて飲むようにしてください。

副作用が出た場合の対処法

副作用として、軟便や下痢などの消化器症状や、味覚異常が知られています。

軟便、軽い下痢または味覚異常の場合

自分の判断で飲む量や回数を減らしたりせず、残りの薬を最後まで(7日間)飲み続けてください。ただし、飲み続けているうちに下痢、味覚障害がひどくなった場合には、医師または薬剤師に相談してください。

発熱、腹痛を伴う下痢、あるいは下痢に粘液や血液が混ざっている場合

このような場合には直ちに薬の服用を中止し、医師または薬剤師に連絡してください。